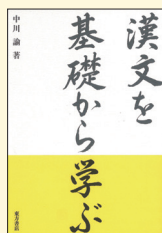


中国を学ぶための 入門書・ガイドブック

本目録に掲載の書籍は、東方書店ホームページ・東京店舗・関西店舗で求めいただけます

WEB 版はこちら→ <https://www.toho-shoten.co.jp/kbook/catalog/nyuumon.html>



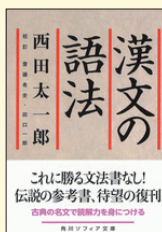
漢文を基礎から学ぶ

中川諭著／東方書店／2,750 円／2023 年

漢文はこわくない！

漢文学習の入り口である返り点と送り仮名から、漢文の文型や文法の学習を経て、最終的には返り点・送り仮名のついていない、句読点だけの漢文を読めるようになることを目指す。丁寧な解説が持ち味の漢文入門テキスト。語句索引つき。

〔目次〕第一章 漢文とは何か／第二章 基本的なルール、漢文についての言葉の説明／第三章 返り点／第四章 書き下し文／第五章 再読文字／第六章 漢文の文法／第七章 基本句法（決まった読み方）／第八章 句点文の読み方



漢文の語法

西田太一郎著／齋藤希史・田口一郎校訂／KADOKAWA／1,782 円／2023 年

漢字の音と意味の関係や規則、文の構造、例外的な用法などについて『論語』や『史記』などの中国古典の名著から引いた 1270 を超える文例を用いて実践的・体系的に解説。語法便覧、慣用句辞典としても活用できる、究極の指南書。



漢文の学び方

魚返善雄著／志学社／2,200 円／2022 年

漢文を「符号語であり、一種の暗号言語である」ととらえ、その学習には、漢文に対する誤解を取っ払い、暗号の法則（文法）をつかみ、そして幅をもたせて訓読していくことである、とする魚返流漢文学習法、70 年ぶりの復刊。

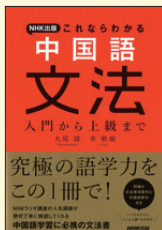


やさしくくわしい中国語文法の基礎

改訂新版

守屋宏則・李軼倫著／東方書店／2,640 円／2019 年

初級から中級まで学習者のニーズに応える、参考書の決定版をリニューアル！ 充実した検索機能など、旧版の長所はそのままに、例文を全面的に見直し、解説もアップデート。例文には日本語訳とピンインを付す。



これならわかる 中国語文法

入門から上級まで

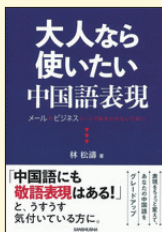
丸尾誠・李軼倫著／NHK 出版／3,630 円／2022 年

中国語文法の基本から応用表現にいたるまでを豊富な用例とともに順を追って詳しく解説。初級で学ぶ基本的な事項から上級者向けの知識までを幅広くカバーしたこの1冊で究極の語学力を身につけよう。巻末索引付き。



中国語成語ハンドブック [新装版]

沈国威・紅粉芳恵・関西大学中国語教材研究会編／白水社／4,620 円／2021 年
調べるにも覚えるにも便利な、学習者のための成語ガイド。中国人がよく使う成語 1200 + 近義・反義語 2000 あまりを収録。2014 年に発売するとともに人口に膾炙した『中国語成語ハンドブック』の新装版。



大人なら使いたい中国語表現

メールやビジネスシーンで恥をかかないために

林松濤著／三修社／2,200 円／2020 年

仕事で中国語を使うなかで、「中国語にも敬語表現はある！」と、うすうす気付いているあなたに。場所、相手、伝達手段にふさわしい表現を身につけて、中国語をグレードアップしよう。



今日からはじめる台湾華語 [新版] (CD 付)

樂大維著／白水社／2,860 円／2023 年

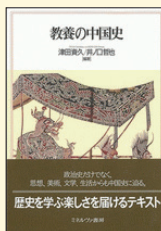
多言語社会の台湾で標準語として使われている「台湾華語」をゼロから学ぶ人に向けたテキストの新版。注音符号付き、会話・単語にはピンイン併記。新版では音声を追加、ダウンロードも可能に。



はじめて出会う中国〔改訂版〕

園田茂人編／有斐閣／2,200 円／2022 年

国際社会における存在感がますます高まる中国。中国に関する情報も増え、その実像はつかみにくくなっている。本書は、さまざまなイメージをもたれる中国を、客観的に理解するために必要な政治・社会に関する基礎知識をわかりやすくかつコンパクトに解説する。



教養の中国史

津田資久・井ノ口哲也著／ミネルヴァ書房／3,080 円／2018 年

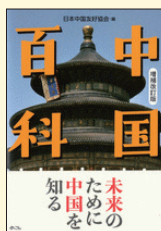
先秦史(渡邊英幸)／秦代～前漢武帝期(水間大輔)／前漢中期～後漢(井ノ口哲也)／三国・兩晋・南朝(津田資久)／匈奴・五胡・北朝(松下憲一)／仏教美術の道のり(森田美樹)／隋・唐(江川武部)／唐後半期・五代・北宋・南宋(宮崎聖明)／契丹(遼)・金・元(渡辺健哉)／明・清(小川快之)／清末・中華民国・中華人民共和国(小野寺史郎)／中国と台湾をめぐる現代文学の歩み(小笠原淳)／現代中国案内(森平崇文)



入門 中国学の方法

二松學舎大学文学部中国文学科編／勉誠出版／1,760 円／2022 年

「文字学（漢字）」、「中国文学（神話と詩）」、「中国女性史（列女伝）」、「中国古典テキスト（論語）」、「中国小説（三国志演義）」、「校勘学（国語）」、「日本漢学」、「域外漢籍」、「日・中書道」、「中国古典読解（漢文訓読）」をテーマとした、中国学の「方法」を学ぶための 11 章。



中国百科〔増補改訂版〕

日本中国友好協会編／めこん／2,750 円／2023 年

未来のために中国を知る――。好きでも嫌いでも、中国は最も重要な隣国であることは間違いない。歴史・政治・経済から食文化・芸能・スポーツまで、中国のあらゆる側面をそれぞれの専門家がコンパクトに記述。この 1 冊で「中国」の全体像がつかめる。



新版 地図で見る中国ハンドブック

ティエリ・サンジュアン著／太田佐絵子訳／原書房／3,080 円／2021 年

中国の夢、一帯一路。中国がいかにか世界で存在感を増しているかを知るために必要不可欠な書。中国がかかえる問題、そして世界の均衡をゆるがしつづけている現状を理解するための 120 以上の地図とグラフ。2017 年 7 月刊の大幅リニューアル版。



入門 中国思想史

井ノ口哲也著／勁草書房／3,080 円／2012 年

中国思想史を初めて学ぼうとする人を対象とした、時代ごとの断代史という構成による入門書。孔子や老子の登場につながる思想からはじめ、全体を通史としてみることで、現代の中国を理解するために必要な様々なものの考え方が理解できるようになる。



よくわかる中国思想

湯浅邦弘編著／ミネルヴァ書房／3,080 円／2022 年

重要な思想家、概念、文献などをおさえつつ、中国思想が反映されている史蹟や芸術作品、中国思想を理解する上で重要な大事件・論争、さらに中国思想と相互に影響を与えあったインドや日本の思想にもふれる。見開き二ページで一項目を解説するわかりやすい構成。



中国倫理思想の考え方

水口拓寿著／山川出版社／1,980 円／2022 年

孔子がつくり、孟子・荀子らが育てた儒教の倫理思想は歴代王朝の「国教」となって、中国の人間関係や社会秩序を強く規定してきた。その形成と展開について概説し、理想と現実を浮き彫りにする。



仏教史研究ハンドブック

佛教史学会編／法蔵館／3,080 円／2017 年

インド、アジア諸国・地域、中国、朝鮮半島、日本の仏教の歴史と教義が詰めこまれた便利でコンパクトな一冊。仏教史を学び始めたい人、幅広く知りたい人に最適！



道教思想 10 講

神塚淑子著／岩波書店／946 円／2020 年

老子の「道」の思想を起点に、古代神仙思想、後漢末の太平道と五斗米道、六朝知識人の修養法など、さまざまな思想・運動をとりこみながら形成された道教。その哲学と教理を、「気」の生命観、宇宙論、救済思想、倫理・社会思想、仏教との関わり、日本への影響などの論点からとらえる。



教養としての中国古典

湯浅邦弘編著／ミネルヴァ書房／3,300 円／2018 年

『論語』『列女伝』『菜根譚』ほか 18 種の中国古典について、実見の機会が少なくなってきた写本・版本の図版を大きく掲載し、各章に「名文読解」の節を設けるなど、原典にも親しみながら学べるように編まれた入門書。巻末の「中国の古典五〇選」では多種多様な中国古典をコンパクトに紹介。



中国文学をつまみ食い 『詩経』から『三体』まで

武田雅哉・加部勇一郎・田村容子編／ミネルヴァ書房／3,080 円／2022 年

第 1 部は、先秦・漢魏六朝から 1949 年以降の 5 章 72 項目にわけ、時代順に作者と作品を見開き 2 頁で解説。第 2 部は、何語で書くか、ビジュアルとのコラボレーション、様々なジャンルと形態、世界から見た中国文学など、ユニークな視点や切り口から中国文学の多様な味わい方を提案。



とびらをあける中国文学 日本文化の展望台

高芝麻子・遠藤星希・山崎藍・田中智行・馬場昭佳著／新典社／2,530 円／2021 年

故事成語や伝統文化、水滸伝、金瓶梅——日本と中国の今と昔を行き来しながら、古典を鍵として知的冒険へのとびらをあける。「言葉の来た道一心頭を滅却すれば火もまた涼しー」（高芝麻子）、「日中の古典作品に見える有り得ない自然現象とその意味するもの」（遠藤星希）ほか。



目録学に親しむ 漢籍を知る手引き

京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究中心編／古勝隆一・宇佐美文理・永田知之著／研文出版／1,650 円／2017 年

「京大文研漢籍セミナー」の第 6 冊。目次：目録学——俯瞰の楽しみ（古勝隆一）／子部の分類について（宇佐美文理）／目録学の総決算——『四庫全書』をめぐる（永田知之）／附録 漢籍目録の参考文献（古勝隆一）



中国注疏講義 経書の巻

古勝隆一著／法藏館／1,980 円／2022 年

注釈を利用して古典を読む。その手法を基礎と実践で学ぶための一冊。【基本篇】で、注釈の基本知識と、テキスト、辞書、参考書について学び、【読解篇】で儒教経書である『孝経』『論語』『周易』『尚書』『詩』『礼記』『春秋左氏伝』の注釈を実践的に学ぶ。



論点・東洋史学 アジア・アフリカへの問い 158

吉澤誠一郎監修／石川博樹・太田淳・太田信宏・小笠原弘幸・宮宅潔・四日市康博編著／ミネルヴァ書房／3,960 円／2022 年

東洋史学の論点を 158 項目集成し、背景とともに提示。〈探究のポイント〉として、ゼミや講義で議論する際の手がかりを示す。学界が誇る第一線の執筆陣 148 名による珠玉の論考。



新・図説 中国近現代史 日中新時代の見取図（改訂版）

田中仁・菊池一隆・加藤弘之・日野みどり・岡本隆司・梶谷懷著／法律文化社／3,300 円／2020 年

中国近現代史の始点を清朝の斜陽（1800 年）におき、21 世紀に至る過程を 3 編 15 章 119 項で描写。改訂にあたり 2011 年以降の動向を盛り込み、21 世紀の中国、台湾・香港を充実。



現代中国の歴史 兩岸三地 100 年の歩み（第 2 版）

久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉著／東京大学出版会／3,080 円／2019 年

中国近現代史の通史として定評のあるテキストの改訂版。超大国として世界のなかで位置づけも劇的に変化した中国。第 2 版では初版刊行（2008 年）以降の情勢をふまえて増補・改訂し、年表・参考文献も刷新した。



概説 中華圏の戦後史

中村元哉・森川裕貴・関智英・家永真幸著／東京大学出版会／2,970 円／2022 年
中国大陸、香港、マカオ、台湾という日本社会と隣接する地域が第二次世界大戦終結後、いわゆる戦後の約 80 年のなかでどのような歴史を歩んできたのか。揺れ動く世界の状況のなかで大国中国の動向がますます注目される現在、その歴史を理解し、未来を展望する道筋を示す。



よくわかる中国史

中西竜也・増田知之編著／ミネルヴァ書房／3,520 円／2023 年

「中国伝統」の変容を「非中国文化」の流入（グローバル化）という視点で捉えるとともに、中国の民族的多様性を漢人以外の側面から解説し、中国文化の広がりにも目を配る。一冊で中国の文明誕生から中華人民共和国まで、多数の写真や地図などで楽しく学べる初学者向け入門書。



現代中国 内政と外交

毛里和子著／名古屋大学出版会／3,960 円／2021 年

グローバル大国化した中国の内政と外交を同時にとらえ、国家資本主義から「周縁」問題まで、両者のネクサスに照準を合わせつつ、革命後の 70 年をふまえて現在の姿を浮き彫りにした、第一人者によるエッセンシャルな一冊。



現代中国経済〔新版〕

丸川知雄著／有斐閣／2,640 円／2021 年

GDP 世界第 2 位の経済大国・中国の経済を解明する。中国経済を、成長の原動力となった工業力の分析を中心として解説した好評書を全面改訂。枯渇しつつある農業の余剰労働力、強大となった経済力に警戒するアメリカ等の他国といった新しい状況に対応。



中国経済学入門

加藤弘之著／名古屋大学出版会／4,950 円／2016 年

成熟した中国経済研究からエッセンスをつかみ出し、所有・市場からガバナンスやイノベーション、対外援助、さらには腐敗・格差まで、生動する独自の経済システムを、トータルに、かつ長期的なパースペクティブのなかで、明解に説き明かす。



よくわかる中国法

王雲海・周剣龍・周作彩編著／ミネルヴァ書房／3,520 円／2021 年

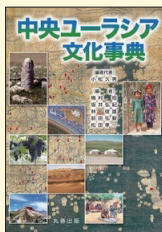
はじめに中国法を概観し、中国の権力体制、中国法をつかさどる特質について解説する。各論では憲法、行政法、民法、商法といった基本分野のほか、食品安全管理法、知的財産権法、行刑法、「智慧法院」新設などのインターネット時代の司法改革などの社会的関心の高いテーマを精選。



中国のリアル 人々は何を悩み、何を追いかけているのか

俞敏浩編著／晃洋書房／3,300 円／2023 年

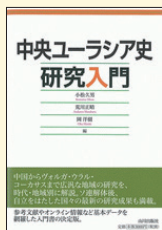
国家権力、政治体制など構造的な問題にも目を配りつつ、女性、LGBTQ+、クリスチャン、少数民族、外国人居住者、留守児童、大学生、ボランティア、中小企業主、退役軍人など、現代中国を生きる「人々」の物語に注目した、斬新な入門書。



中央ユーラシア文化事典

小松久男編／丸善出版／24,200 円／2023 年

中央ユーラシアとは、モンゴル高原から黒海とカスピ海に挟まれたコーカサス、チベット高原に至る広大な地域を指す。この地の厳しい自然環境に適応した草原の遊牧民と、オアシスの定住民たちが育んできた歴史・文化、多彩な魅力を全 16 章、318 項目で解説する。



中央ユーラシア史研究入門

小松久男・荒川正晴・岡洋樹編／山川出版社／3,300 円／2018 年

中国からヴォルガ・ウラル・コーカサスまで広汎な中央ユーラシア地域の研究を、時代・地域別に解説。ソ連解体後、自立をはたした国々の最新の研究成果も満載。参考文献やオンライン情報など基本データを網羅した入門書の決定版。



中国のムスリムを知るための 60 章

エリア・スタディーズ

中国ムスリム研究会編／明石書店／2,200 円／2012 年

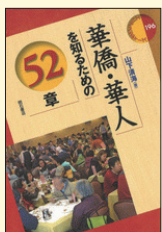
中国には 10 のイスラームを信仰する少数民族が暮らしている。中華世界とイスラーム世界との接触・共存・融合・対立などのダイナミズムを体現してきた彼らについて知るための入門書。



ようこそ中華世界へ

川島真編／昭和堂／2,970 円／2022 年

中国との関係は多くの分野で深化しているが、その「中国」は、国家としての中華人民共和国というより、台湾・香港・マカオ・華人を含めた多様な中華世界だろう。その中華世界を政治から文化に至る多方面の専門家 16 名が解説する。

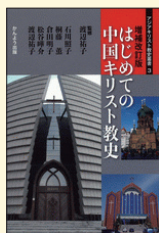


華僑・華人を知るための 52 章

エリア・スタディーズ

山下清海著／明石書店／2,200 円／2023 年

在外中国人を指す「華僑」と、中国にルーツを持つが外国籍の「華人」。世界各国のチャイナタウンを歩き続けて 40 余年、観察と研究を積み重ねてきた地理学者が、華僑・華人の歴史と今を縦横無尽に語り尽くす。



増補改訂版 はじめての中国キリスト教史

渡辺祐子監修／石川照子・桐藤薫・倉田明子・松谷曄介・渡辺祐子著／
かんよう出版／2,200 円／2021 年

7 世紀以降の中国におけるキリスト教史を叙述。現代にかんしては、宗教統制下の三自愛国教会や、非公認の家庭教会、中共とバチカンとの関係、香港の逃亡犯条例改正問題、国家安全維持法の問題についても言及。



中国ジェンダー史入門

小浜正子・下倉渉・佐々木愛・高嶋航・江上幸子編

京都大学学術出版会／3,850 円／2018 年

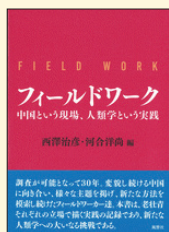
社会の父系化、ジェンダー規範の強化、そして社会主義をへて改革開放の大変動まで。家族、労働、ナショナリズム、身体、LGBT など今日的な研究視点を網羅し、中国ジェンダー史研究の全体像を初めて伝える。



中国女性史入門 女たちの今と昔〔増補改訂版〕

関西中国女性史研究会編／人文書院／2,530 円／2014 年

いまだかつてなかった自由な視点からの新しい研究をふまえ、古代から現代までを見渡した中国女性史の入門書。増補改訂版。



フィールドワーク 中国という現場、人類学という実践

西澤治彦・河合洋尚編／風響社／3,960 円／2017 年

調査が可能となって 30 年。変貌し続ける中国に向き合い、様々な主題を掲げ、新たな方法を模索し続けたフィールドワーカー達。本書は、老壮青それぞれの立場で描く実践の記録であり、新たな人類学への大いなる挑戦である。



中国料理の世界史 美食のナショナリズムをこえて

岩間一弘著／慶應義塾大学出版会／2,750 円／2021 年

世界に広がり、人々に愛され「国民食」へと変貌をとげた「中国料理」。国家建設とナショナリズムに注目しながら、アジアからアメリカ、ヨーロッパを縦横無尽に旅して、中国料理と中国系料理の巨大で口福な歴史を味わいなおす。



デジタル時代の 中国学リファレンスマニュアル

漢字文献情報処理研究会／好文出版／4,950 円／2021 年

中国関連の資料探索や文献調査に役立つガイドブック。アナログ的な資料や工具書だけでなく、デジタルリソースの利用方法も同列に紹介。



図書館のための和漢古書目録法入門

伊藤洪二著／樹村房／2,310 円／2019 年

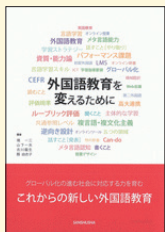
和漢古書は現代の書籍と比較するとそのありようが大きく異なり、取り扱いが難しい。本書は、図書館現場へ向けて NCR での規定に言及しつつ、図書館システム上で和漢古書の目録を作成する際に必要となる諸知識を紹介する。



調べる技術 国会図書館秘伝のレファレンス・チップス

小林昌樹著／皓星社／2,200 円／2022 年

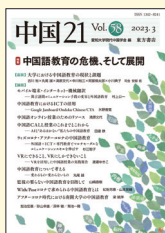
原稿のチェックや論文執筆など、「調べもの」をする際に、キチンと答えを出すにはどうすればよいのか？ 国会図書館で 15 年にわたり、総記・人文科学・「その他」分野でレファレンスサービス（利用者の調べ物相談）に従事した著者が、その実践的な技術を大公開！



外国語教育を変えるために

境一三・山下一夫・吉川龍生・縣由衣子著／三修社／2,640 円／2022 年

ヨーロッパ言語共通参照枠、Can-do リスト、複言語・複文化主義、学習指導要領、資質・能力主義ルーブリック評価、オンライン授業、LMS、メタ認知など、多くの視点から外国語教育を考える。理論的な背景だけではなく、いかに授業に取り入れるのかも事例と一緒に提示する。



中国21 Vol. 58 中国語教育の危機、そして展開

愛知大学現代中国学会編／東方書店／2,200 円／2023 年

「座談 大学における中国語教育の現状と課題」のほか、「モバイル端末・インターネット・機械翻訳——異言語間コミュニケーション手段の変容と外国語教育」（村上公一）、「中国語教育における ICT の活用——Google Jamboard/Ondoku Chinese/CTA」（氷野善寛）など論説 10 編。



中国書法史入門

劉濤著／河内利治監修／亀澤孝幸訳／科学出版社東京／5,280 円／2021 年

中国文化は文字にはじまり、書が最高の芸術とみなされてきた。本書では、一流の書法史家が書体ごとに書法上の発展過程を概説。数多くの名品の図版によって読者の理解を助ける。最新の学説を踏まえて語られる書の歴史。



中国工芸美術史入門

岡剛著／三渚正道監訳／長田格訳／科学出版社東京／4,620 円／2021 年

日本文化のルーツである中国文化を知ること、日本を知ること。本書では、中国の四千年を超える歴史を俯瞰しながら、工芸美術史の大家である著者が、その深い学識と分かりやすい文章で、中国工芸美術の誕生、発展、変遷を語る。収載図版 247 点、うち 18 点は日本所蔵品である。



中国京劇小辞典

魯大鳴著／駿河台出版社／1,980 円／2019 年

京劇を観る前に、京劇を観た後に、京劇の手引書として京劇鑑賞に必携の一冊。京劇の各分野の単語を 8 つのパート（役者篇、音楽篇、化粧篇、服装篇、道具篇、京劇用語日常生活篇、京劇慣用句及び諺篇、演目篇）に分けて説明。見出し語には中国語の発音のカタカナルビ付き。



太古の奇想と超絶技巧 中国青銅器入門

とんぼの本

山本堯著／新潮社／2,200 円／2023 年

三千年ほど前の中国で、祖先をまつる儀式用の特別な器としてつくられた青銅器の数々。見るほどに仰天し、知るほどに面白い、無辺の青銅器世界へのいざない。



もっと知りたい 中国の美術

アート・ビギナーズ・コレクション

富田淳監修／東京美術／2,420 円／2022 年

かつて紫禁城に収蔵されていた名品を中心に、清朝第六代の皇帝であった乾隆帝をキーワードに中国の美術を読み解く、新しい視点による入門書。中国美術の流れとそのエッセンスを豊富なビジュアルとともに紹介する。



香港を知るための60章 エリア・スタディーズ

吉川雅之・倉田徹編著／明石書店／2,200 円／2016 年

「歴史・地理・人口」「政治と法」「経済と社会」「多様性とネットワーク」「メディア・教育・言語」「文化」に分け、香港の魅力を紹介。参考文献、年表、固有名詞対照表（繁体中文・英文・日本語）も付し便利。



香港とは何か

野嶋剛著／筑摩書房／924 円／2020 年

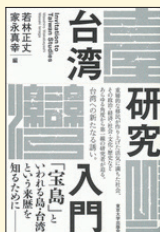
選挙介入や国家安全法の導入決定など、中国の横暴がすさまじい。返還時の約束が反故にされた香港。若者中心の抵抗運動から中米対立もはらむ今後の見通しまで。



台湾を知るための72章 第2版 エリア・スタディーズ

赤松美和子・若松大祐編著／明石書店／2,200 円／2022 年

現在、国際社会においてその存在感を増す一方で、地域情勢の変動で耳目を集める台湾。本書は旧版をバージョンアップし、この地に関する基本的な知識を提供するとともに、最新の情報を盛り込む、台湾入門書である。



台湾研究入門

若林正丈・家永真幸編／東京大学出版会／4,290 円／2020 年

東アジアの地政学上、いまや重要な島となってきた台湾。台湾研究の第一線の研究者たちが、台湾の歴史・政治・社会・文化を理解する上で重要なキーワードによってわかりやすく、簡潔に解説する。「台湾とは何か」という問いに多角的な視点から迫る新しい入門書。



日台関係史 1945-2020 増補版

川島真・清水麗・松田康博・楊永明著／東京大学出版会／3,080 円／2020 年

日本と台湾の戦後から現在までの歴史をグローバルな視点から描き出す通史。東アジアを的確に理解するために必要な戦後の日台関係の歴史について、連続と非連続を総合的に叙述した初版から約 12 年、その後の東アジア、そして世界のなかでの変容を増補する。



ビジュアル大図鑑 中国の歴史

DK 社編／佐川英治・岸本美緒監訳／東京書籍／6,930 円／2022 年

5000 年前の神話の君主から清の最後の皇帝溥儀まで、中国の歴史をひもとくビジュアル年代大図鑑。先史時代と初期の人類に始まり、秦の「初代皇帝」、唐・宋の黄金時代、最後の満州清朝の滅亡まで帝国中国の繁栄と衰退の過程を、多数の美術品や工芸品を織り交ぜて解説する。



日本漢籍受容史 日本文化の基層

高田宗平編／八木書店／9,900 円／2022 年

漢籍は、どのように受容され、日本文化に根付いたのか。第一部古代、第二部中世、第三部近世、第四部文献研究の四部構成で、論考 24 本とコラム 4 本を収録。漢籍・漢学が日本のあらゆる分野に与えた影響とその特質を論じる。



中国服飾史図鑑 第四巻

黄能馥・陳娟娟・黄鋼編著／古田真一監訳／

科学出版社東京／国書刊行会発売／30,800 円／2021 年

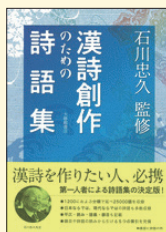
衣服、冠帽、履物、装身具、髪型や化粧まで、写真や図解を駆使して網羅的に解説。第一巻 服飾の誕生～魏晋南北朝、第二巻 隋～元、第三巻 明～清(上)、第四巻 清(下)～近代(各巻税込 30,800 円)。



中国語学辞典

日本中国語学会編／岩波書店／17,600 円／2022 年

日本中国語学会が学会を挙げて編纂する、中国語学に関する総合的な辞典。文法・音韻・語彙・文字・古代文献・方言・言語処理・言語教育・社会言語学などの分野にわたる、用語・事項・書名・出土資料などの約 1100 項目を収録。巻頭に「分野別項目一覧」を掲げる。



漢詩創作のための詩語集

石川忠久監修／大修館書店／6,930 円／2022 年

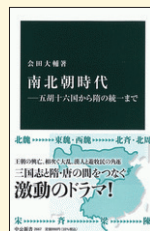
延べ 25000 の詩語を詠みたいテーマ・心情など 1200 余の分類によって配列。平仄・韻目・読み・語義も記しており、漢詩の作法にかなった詩語が容易に選び出せる。韻目や詩語の読みから引ける 5 つの索引を完備。「故事一覧」「題詠詩題一覧」など付録も充実。



古代中国の24時間 秦漢時代の衣食住から性愛まで

柿沼陽平著／中央公論新社／1,056 円／2021 年

始皇帝、項羽と劉邦、武帝ら英雄が活躍した中国の秦漢時代。今から2000 年前の人々は毎日朝から晩まで、どんな日常生活を送っていたのだろうか？ 気鋭の中国史家が史料を読み込み、考古学も参照しながら、服装、食事から宴会、セックス、子育ての様子までその実像を丸裸に。



南北朝時代 五胡十六国から隋の統一まで

会田大輔著／中央公論新社／990 円／2021 年

中国の南北朝時代とは、五胡十六国後の北魏による華北統一（439 年）から隋の中華再統一（589 年）までの150 年を指す。北朝と南朝の抗争や反乱が相次ぎ、仏教弾圧や専制君主による「暴政」も頻発した一方、漢人と遊牧民の文化が融合した転換期でもあった。激動の時代を活写する。



唐 東ユーラシアの大帝国

森部豊著／中央公論新社／1,210 円／2023 年

618 年、李淵（高祖）が唐を建国。最盛期にはペルシア・インド・日本とも交通、国際色豊かな文化を生み、大帝国の偉容を誇った。本書では、政治史を軸に對外戦争、経済、社会制度、皇室の権謀術数にも注目し、東ユーラシア帝国290 年の興亡を巨細に描く。



シリーズ中国の歴史 岩波書店

「中国」はどこから来てどこへ行くのか。群雄割拠を繰り返してきた雄大な歴史を、世界史的な視座から全5 巻で描きだす。

1 中華の成立 唐代まで 渡辺信一郎著/924 円/2019 年

2 江南の発展 南宋まで 丸橋充拓著/902 円/2020 年

3 草原の制覇 大モンゴルまで 古松崇志著/968 円/2020 年

4 陸海の交錯 明朝の興亡 檀上寛著/946 円/2020 年

5 「中国」の形成 現代への展望 岡本隆司著/946 円/2020 年



物語 チベットの歴史 天空の仏教国の 1400 年

石濱裕美子著／中央公論新社／990 円／2023 年

軍事国家であったチベットはインド仏教を受容し、12 世紀には仏教界が世俗に君臨する社会となった。17 世紀のダライ・ラマ政権時は、チベットはアジアの聖地として繁栄した。しかし、1950 年人民解放軍のラサ侵入によりチベットは独立を失う。チベットの未来はどうなるのか？



新疆ウイグル自治区 中国共産党支配の 70 年

熊倉潤著／中央公論新社／946 円／2022 年

1955 年に新疆ウイグル自治区が成立した当初、中国共産党は少数民族の「解放」を謳った。それから 60 数年、なぜ多くの人々を「職業技能教育訓練センター」へ収容するという過酷な統治に転じたのか。中央政府、漢人の指導者、そして少数民族幹部の関係性に着目し、苦難の歴史を解き明かす。



中国パンダ外交史

家永真幸著／講談社／1,760 円／2022 年

1972 年 10 月、日中友好の証として、上野動物園に 2 頭のパンダがやってきた。しかし、中国がパンダの外交的価値に気づいたのは、1930 年代にさかのぼる。戦争と革命、経済成長の激動の歴史のなかで、パンダはいかに世界を魅了し、政治利用されてきたか。異色の中国近代外交史。



ふしぎな中国

近藤大介著／講談社／990 円／2022 年

「白衛兵」「西朝鮮」「外売騎手」「45 度人生」「新電源人」「錦鯉」「凡人」……あなたは、この意味わかりますか？ 中国ウォッチャーとして知られる著者が、新語・流行語で現代中国を読み解く。読み始めたらとまらない面白さ！



中国共産党 世界最強の組織

1 億党員の入党・教育から活動まで

西村晋著／井上純一装画／星海社／講談社発売／1,199 円／2022 年

中国共産党の下部組織を日本で初めて紹介。約 1 億の党員がいかに訓練され、企業や地域に浸透しているかを知らずに中国社会は語れない。「一党独裁」のイメージからは想像できない真の中国をご案内！

東方書店 御案内



東方書店ホームページ【中国・本の情報館】

<https://www.toho-shoten.co.jp>

輸入書 28 万点、国内書約 3 万点、輸入雑誌 3500 点の書誌データと在庫情報を公開。フリーワード検索可能。

東方書店のウェブマガジン WEB『東方』

https://www.toho-shoten.co.jp/web_toho

中国関連の国内書・輸入書の情報のほか、書評やコラム、連載など読み応えたっぷり！

東方書店東京店舗アクセス図



東京メトロ半蔵門線、都営三田線・都営新宿線
神保町駅 A7 出口徒歩 1 分
営業時間：(月～土) 10:00-19:00 (日) 休業
(祝) 12:00-18:00

東方書店関西店舗アクセス図



地下鉄御堂筋線江坂駅 5 号出口徒歩 5 分
(駐車場あり)
営業時間：(月～金) 10:00-17:30
(土日祝) 休業

メールマガジン

『電 伝』 中国輸入書籍の近刊・新入荷情報をお届けします

『書羅盤』 国内書の新刊情報。「まぐまぐ」を使って送付

ご登録はこちら⇒ <https://www.toho-shoten.co.jp/mailmag/index.html>



Twitter

<https://twitter.com/tohoshoten>

輸入書、東方書店刊行書のほか、
学会・講演会などの情報も発信。



Twitter (東京店)

https://twitter.com/toho_jimbocho

東京店の店員がナマの情報を
いち早くお届け。



Instagram

<https://www.instagram.com/tohoshoten/>

日々入荷してくる話題の書を紹介。



Facebook (東京店)

<https://www.facebook.com/tohojimbocho>

新着書情報や神保町のイベントなど、
最新情報を発信。

